

シンポジウム 14- 『分析化学実験 基本の”き” (その基本、おさえていますか?)』

(チュートリアルセッション 一般公開)

オーガナイザ：上原伸夫 (宇都宮大学) (代表者)

趣旨 機器分析法の発達は化学分析を身近なものしてきた。測定装置にかければ何がしかの測定値が容易に得られる。その一方で、その測定値の持つ意味を理解しないままに、測定値が一人歩きするといった懸念も高まっている。本セッションでは、分析値を得るという行為、すなわち分析化学実験において、普段は見過ごされがちな基本的な事項について改めて焦点を当てる。具体的には、何のために、何を、どのように分析するのか、そして得られた測定値から分析値を算出するためにはどんな点に留意すべきか、といった視点から議論する。

【講師及び演題】

- 1 小熊幸一 (千葉大学)
「実験ノートの適確な付け方」
- 2 林 英男 (東京都立産業技術研究センター)
「実験器具の取り扱い方法」
- 3 上原伸夫 (宇都宮大学)
「正しい溶液調製法、-何をどう取り、どう溶かすか-」
- 4 城野克広 (産業技術総合研究所)
「不確かさに慣れる」
- 5 上本道久 (明星大学)
「測定値を分析値にするための基礎知識」

※演題は変更する場合があります。講演順は未定です。